



8K HDR『神秘の水中鍾乳洞 セノーテ』 ©NHK

世界に類なき NHK潜水チーム〈前編〉

世界で初めて8K HDRで水中洞窟を潜水撮影した『神秘の水中鍾乳洞 セノーテ』を見たが、圧倒的な美しさと迫りに息をのんだ。掲載写真を見ていただきたい。ダイバーが水面の上で泳ぐ(?)ように見えるが、これは水中に出現した水面なのである。この不思議な映像を捉えた潜水チームに話が聞きたい!と、取材を申し込んだ。こちらの熱意をくんで、部屋に入りきらないほど集まってくれた。彼らの声は、潜水チームの談として「」で紹介する。また、1回では載せきれないほどのエピソードに、2回に分けての掲載を決めた。今号では、潜水カメラマンの歴史をひも解き、自らの生命を守るために続けている“地獄”と呼ぶほどの厳しい研修の様子を紹介する。(インタビュー:吉井 勇・本誌編集部、構成:古山智恵・本誌編集部、写真:川津貴信)

歴史から見た潜水撮影

NHKの潜水チームは、1962年に当時のテレビニュース部、映画部撮影課、映画部写真課のカメラマン合計11人が潜水士の免許を取得したのが始まりである。ただし、テレビ番組の最初的水中撮影は、1957年8月に放送された短編映画『海底の探訪』で、16mmフィルムカメラを水中プリンプに収め、映画課のカメラマン2人によって撮影された。

長い歴史の中で転機となったのは、1966年2月4日に起きた全日空羽田沖墜落事故であった。

日本初の大型ジェット旅客機の事故で、乗客・乗員計133人の尊い命が奪われた。この事故を独占スクープしたのがNHKの映画部に所属していた潜水カメラマンで、驚いたことに、事故沖の海底探査をしていた海上自衛隊水中処分隊の艦船に乗艦して撮影をしている。「以前に処分隊の活躍を撮影したことがありました。それに、直前に北海道での水中撮影があり、寒さに耐えられる分厚いウェットスーツを持っていたのです」と、日ごろの経験が幸運に結びついたという当時の談話が残っている。

この単独大スクープ以降、NHKは水中撮影に

特化したカメラマンの育成に力を入れ、1966年から組織的に潜水研修を始め、潜水チームが発足する。1975年に初の海外潜水取材で『海と人間』4作品を制作し、1984年には南極観測隊に同行し、南極に潜るまでになる。

潜水カメラマンに 求められるもの

NHKの潜水チームは現在、「技術系カメラマン54人、報道系カメラマン47人、アナウンサー(1996年より参加)8人の109人が参加していま